

機関番号：11501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20730111

研究課題名(和文) 中東地域政治システムとイスラエル

研究課題名(英文) Middle Eastern Regional System and Israel

研究代表者

濱中 新吾 (HAMANAKA SHINGO)

山形大学・地域教育文化学部・准教授

研究者番号：40344783

研究成果の概要(和文): 本プロジェクトはイランの核開発によってイスラエルが直面する状況を研究するものである。採用したアプローチは地域レベルに適用した国際システム理論に基づいており、勢力均衡の変化に応じて紛争の蓋然性が変化することを論じている。さらに安全保障政策がパレスチナ人に過酷な生活状況を強制し、移動の自由を制限していることも検討した。

研究成果の概要(英文): The project studies what situation Israel will face because of nuclear development in Iran. My approach is based on the theory of the international system applied to the regional level and we can discuss the probability of conflict in accordance with the change of balance of power. Israeli security policy has enforced severe living conditions to the Palestinians and constrained their liberty of movement in the occupied territories.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：国際システム、イスラエル、抑止理論、世論、パレスチナ、越境移動

1. 研究開始当初の背景

(1)国際危機がエスカレートするとき、政治指導者は武力行使の威嚇を容易には撤回できない。なぜなら威嚇の撤回は外交的屈辱となり、指導者にとって政治的な失敗だからである。この失敗は支持率の低下、もしくは引責辞任や選挙での敗北という政治コストにつながる。これが観衆費用であり、民主制では独裁制よりもこうしたコストが高いと見られる。

(2)イスラエルは権威主義体制のアラブ諸国に囲まれた中東唯一の民主制国家である。

ゆえに観衆費用という概念によって中東紛争のエスカレーションを説明しやすいかもしれない。

2. 研究の目的

(1)本研究は、中東地域政治システムの動態をイスラエルの国内政治過程からゲーム理論の手法でモデル化し、導出された仮説を計量分析によって説明しようとするものである。イスラエルの存在が中東を紛争地帯にしてきた事実は歴史的に明白であるが、理論的分析が十分なされていない。本研究課題はこの学問的空白を埋める

試みである。

(2)外交・国際政治に関する世論を扱うという共通点から、イスラエルがアラブ諸国民の眼にどのように映り、そのことが認識上の国際システムをいかに構成しているのかを世論調査によって記述的に推論し、計量的に分析する。

3. 研究の方法

(1)第二次レバノン戦争をめぐるイスラエル国内の世論を演繹的に記述するため、進化ゲーム理論によるモデリングを試みた。

(2)イスラエルの存在が敵対するアラブ諸国民に与えるイメージを基に「政治的認知地図」を作成した。これはアラブ諸国民の想定する中東地域政治システムの認識である。

(3)イスラエルの安全保障政策がパレスチナ人の越境移動の障害になっているという視点から、パレスチナ人の移動実態および移動希望を計量分析した。

4. 研究成果

(1)第二次レバノン戦争では rally effect(戦争時に政治指導者の支持が上昇する)が認められたものの、戦争政策の業績が芳しくなかったため、支持は急降下した。これはモデルの「不安定抑止」の含意に一致することが分かった。

(2)イスラエルと敵対するシリアにとって、米国とイスラエルの関係は緊密であり、シリア-イラン同盟との対角上に存在しているものの、米国-イスラエル同盟と相対しているのはイランであり、シリアではないという認識を示していることが分かった。

(3)パレスチナ人は難民という地位に置かれているがために、越境移動の経験が豊富であり、具体的な移動希望を示している。しかしながら難民であることを過剰に強調することで、移動に関する彼らの実相が見えづらくなることもまた事実であることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

青山弘之、浜中新吾、シリア国民の政治的認知地図、現代の中東、査読有、46号、2009、2-19

高岡豊、浜中新吾、シリア人の国境を越える移動に関する意識と経験、現代の中東、査

読有、47号、2009、2-17

高岡豊、浜中新吾、パレスチナ人の越境移動に関する経験と意識、アジア経済、査読有、2011、24-42

〔学会発表〕(計3件)

Hamanaka Shingo, A Political Perception Map of Palestinians, World Congress for Middle Eastern Studies, Barcelona, July 19, 2010.

青山弘之、浜中新吾、高岡豊、山尾大、溝渕正季、中東諸国の世論調査、日本行動計量学会、埼玉大学、2010年9月25日。

Hamanaka, Shingo, Public Opinion and the Deterrence, 日本国際政治学会、札幌コンベンションセンター、2010年10月29日。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.e.yamagata-u.ac.jp/~oshiro/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

濱中新吾 (HAMANAKA SHINGO)

山形大学・地域教育文化学部・准教授

研究者番号: 40344783

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号: